

あ い の

Vol.9

2011.10月発行

【秋の花：サルビア】

Contents

- ・ 院長就任のあいさつ
- ・ 臨床心理について
- ・ 体にやさしい最先端のがん治療
- ・ 就任医師紹介
- ・ ダイバージョナルセラピーNo.8
- ・ リハビリテーション科だより

院長就任のあいさつ



院長 杉野正一

平成23年9月1日より医療法人恒昭会藍野病院院長を拝命致しました。

私は永らく大阪医科大学第一内科学講座で神経内科を担当して参りました。大学病院でのさまざまな内科疾患やパーキンソン病、認知症疾患をはじめ多くの神経疾患を診させて頂いた経験を生かして地域医療の役割の一端を担うべく努力する所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

昭和40年に設立された当院は、現在では診療科として内科（神経内科、循環器内科、糖尿病・内分泌内科、消化器・肝臓内科、リウマチ・膠原病内科など）、外科（消化器、呼吸器）、整形外科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、小児科（発達障害）、歯科、リハビリテーション科、血液浄化センター、認知症を含む精神科（リエゾン医療センター、老年心身医療センター）など総合病院に近い陣容が整い、969床を活用して良質な医療の提供を心がけて診療に携わらせて頂いております。

養老孟司氏の著書に『仕事とは、社会に空いている穴を埋めることである』の一節があります。当院が設立以来積み重ねてきた医療基盤を生かして、地域医療の空いている穴を少しでも埋めるために何ができるのか、地域に貢献できる役割とは、との視点から、現在以下の3つに力点を置き実践しております。

- 1.一般身体疾患の外来・入院治療
- 2.認知症のトータル治療
- 3.精神症状を伴う患者様に対する身体合併症の治療

一般身体疾患の診療では、各診療科の専門医がお互いに協力や意見交換をしながら『臓器ではなく全身から診る』姿勢をモットーに診療を行っています。とりわけ、周辺の地域にまだ専門医の少ない神経内科や糖尿病内科、リウマチ・膠原病科など、地域医療の穴を埋める役割を果たしていきたいと考えております。

認知症診療では、既に10年前より『もの忘れ外来』を開設しており、病状により入院治療も可能な体制を取っております。特に、『もの忘れ外来』では物忘れが気になりだしたごく初期からの早期診断・早期治療や介護者を悩ませる認知症に伴う精神症状などの治療に対応すべく神経内科医と精神科医が連携して外来を担当しており、他院にない当院の特色となっております。

3つめはリエゾン医療センターや老年心身医療センターで実施している精神症状を持っておられる患者様の身体合併症に対する入院治療です。認知症のみならずご高齢の患者様では、身体状況の悪化に伴い精神症状が出現することは少なからず起こります。当院はかつて精神病院として設立され、その治療の過程でみられる身体合併症もおろそかにせず『こころも身体も診る病院』を理念としてきた経緯があります。

現在は、精神疾患の治療を目的とした入院には対応しておりませんが、認知症や精神疾患をわずらっておられる患者様の身体疾患合併症の治療に対しては、内科、外科など各科と精神科の医師が併診し身体と精神の両面から治療にあたっております。このような体制を持つ病院は府下でも極めて限られており、これまでも地域の大切な役割を担ってきたと自負しております。

既に超高齢社会にあり、今後さらに後期高齢者人口の増加が見込まれる日本において、ますます必要とされる高齢者診療・老年医学の最も大切な姿勢とは、『身体とこころを合わせて診る全人的医療』です。藍野病院は、看護体制の充実をはじめまだまだ改善すべき課題も持つ発展途上の病院ではありますが、その理念の実践を通じて高齢者医療のモデル病院となることを目標として改善に取り組んでおります。なにとぞ、ご理解、ご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

臨床心理について

臨床心理科は現在、常勤スタッフ6名、非常勤スタッフ4名が在籍しており、総合病院における多様なニーズに応えるべく、それぞれの強みを活かして業務に携わっております。また認知症ケア専門士の資格を持つ臨床心理士が3名在籍するなど、認知症ケアへの関心が高いスタッフを多く擁していることも特徴の一つです。今回は臨床心理科の主な業務についてご紹介致します。



◎心理検査

ひとの顔がそれぞれ異なるように、こころにもそれぞれ特有のあり方、ものの見方があります。その特徴を客観的に理解して、今後の治療やケアに役立てられるようにとの思いから、心理検査を実施しております。

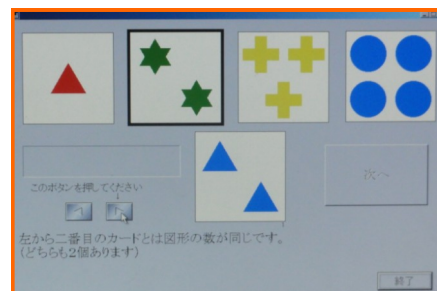
具体的には、もの忘れを「年齢のせい」と思い込もうとして、不安な毎日を過ごしていたり、以前と比べて自信が持てないといったことでお悩みであれば、記憶面を中心とした認知機能検査を実施しております。

また日々のお子様との関わりの中で悩んでおられる親御さんであれば、日々の過ごし方が少しでも楽になるよう、発達上の特徴を把握することが可能な発達検査を実施しております。

さらに長期間にわたる自己管理が必要な糖尿病の場合、ちょっとした気のゆるみやストレスがきっかけとなり、自己管理に失敗することもしばしばです。糖尿病教育入院では、ご自身の性格や考え方の特徴について理解を深めていただき、今後の自己管理に役立てていただけるよう、性格検査などの心理検査を実施しております。



画面



◎認知症治療病棟

当院に設置されている認知症治療病棟では、臨床心理士が各病棟に1名ずつ配属されており、患者様がその人らしく過ごせるよう、様々なお手伝いをさせて頂いております。具体的には、個別のニーズを把握するために定期的に心理検査を実施したり、医師、看護師、作業療法士等と連携して患者様のニーズをケアに反映できるように努めています。当院認知症治療病棟における取り組みの一つとして「お話しの会」が挙げられます。この「お話しの会」では、昔の懐かしい出来事や四季に親しみながら、自己表現する体験を通じて、その人が大切にしたいことを思い出したり、お話しして頂いております。又、レクリエーションや季節の活動を通じてこころのサポートを実施致しております。

◎ペアレント・トレーニング

ペアレント・トレーニングとは、発達の特徴をもったお子様を理解し、良い行動を増やし困った行動を減らすことを目指すアプローチです。当科では小児発達外来の専門医と連携して、お子様のよりよい発達のために、親御さんの関わり方や学校での過ごし方について月に1回60分程度の形の中で、ご相談をお受けしております。希望される方は、当院小児発達外来に受診のうえ、専門医にご相談ください。

◎糖尿病教室

長期間にわたり自己管理が求められる糖尿病の場合、他の病気と比べてストレスがたまりやすいといわれています。そのため当院では、管理栄養士、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士とともに糖尿病教室にてストレスマネジメントについて話題提供をしております。

その他、院内スタッフを対象にストレスマネジメントや、コーチングなどの研修も担当しております。

私ども臨床心理科では、院内スタッフと連携を図ることで患者様をはじめ、ご家族、地域の皆様のためにきめ細かいサポートが実現できることを願っておりますので、院内にて姿を見掛けましたら、お気軽にお声掛けください。

体にやさしい最先端のがん治療

～レトロネクチン®誘導Tリンパ球療法を用いた
がん免疫・温熱・化学療法～

と題して京都府立医大・藍野病院共同の市民公開講座が10月1日（土）に開催されました。



高齢化社会の進展に伴い、がん患者が増加している今日、副作用が少なく、体にやさしいがん治療法が求められています。

当日は体にやさしい最先端のがん免疫・温熱・化学療法について、臨床の専門医に解りやすく説明して頂きました。

来場者は550人を超え、又「パネルディスカッション・質疑応答」も沢山の方からご質問を頂き、がん免疫・温熱・化学療法への、関心の高さがうかがえる公開講座でした。

講座内容は以下の通りでした。

○開会挨拶 小山郁夫・医療法人恒昭会理事長

特別講演1「がん診察の今と未来」

吉川敏一・京都府立医科大学学長

特別講演2「化学療法はなぜ必要？」

石川 剛・京都府立医科大学消化器内科講師

特別講演3「ハイパーサーミア（温熱療法）」

坂井宏実・藍野病院消化器内科医員

特別講演4「最新のがん免疫療法」

古倉 聡・京都府立医科大学消化器内科准教授

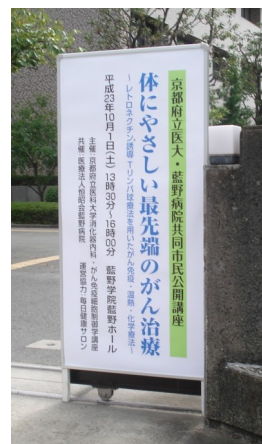
○パネルディスカッション・質疑応答



当院の医師であり、今回の講演者の一人である坂井宏実先生に

当日の講演内容を要約して頂きました。

がんに対する一般的な治療方法の考え方とはいったいどういったものなのでしょうか。標準治療と言われる手術、化学療法、放射線療法が今どのように進歩し、実際に施行されているのでしょうか。現在、化学療法は副作用の軽減を目指して、分子標的治療薬が開発され、臨床の現場で使用されています。それらの活躍により、化学療法のがん奏効率は飛躍的に改善を見せています。しかしこれら標準治療でがんを根治させることができない場合に、ハイパーサーミアや免疫治療の併用を行うことで、がん治療の手助けになる可能性が高いのです。ハイパーサーミアとは、電磁波を用いて、がん組織を42～44℃に加温して、がん細胞を攻撃する治療法です。免疫治療は様々な治療が行われていますが、タカラバイオ（株）が開発したレトロネクチン®を用いることによりナイーブT細胞を培養・増殖させ、患者さんに戻す治療を京都府立医科大学が開発し、治療効果を上げています。ハイパーサーミアや免疫治療は、それらだけでがんを根治させることはできませんが、これらの治療を標準治療に組み合わせることにより、標準治療だけを行った場合に比べて、治療効果を発揮することができます。しかも、これらの治療は副作用がほとんどないことが利点となっています。標準治療による副作用で苦しむことは非常によくあることですが、ハイパーサーミアや免疫治療を組み合わせることで、化学療法の薬剤量を減らすことができ、副作用の軽減につながります。ハイパーサーミアや免疫治療を標準治療に積極的に併用することで、がん治療の成績向上、患者さんのQOLの改善につながると考えられます。



就任医師紹介



河島久人 医師

2011年7月より内科常勤医として当院に赴任いたしました河島久人です。ご挨拶申し上げます。昭和62年に大阪医科大学を卒業し、平成3年8月以降は、ウィルス性肝炎・肝硬変・肝癌等、主に肝臓病の診療に携わっておりました。近年の肝臓病学の進歩はめざましいものがあり、C型慢性肝炎の70%以上が治癒可能となる一方で、成人発症のB型急性肝炎で遷延慢性化する症例が増加する等、10年前の医学常識が次々と覆されています。最新の知見に基づき、患者様各々の病態・ニーズに合わせたきめ細かい治療を実践すべく、日々精進して参る所存です。ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

ダイバーショナルセラピーNo.8 ～ロボットセラピー①～



今回は当院で行われているロボットセラピーについてご紹介させていただきます。

認知症高齢者の非薬物療法として、犬や猫とふれあう《アニマルセラピー》には精神的な安定や会話の促進など様々な効果があると言われていますが、医療の現場で動物を飼う事は感染症予防や動物自体のストレスの心配などの課題が多くあります。

そこで、これらの問題を解決し、アニマルセラピーと同等の効果が期待されるのがロボットセラピーです。あざらしロボットの“パロ”は経済産業省の産業技術総合研究所で研究開発され、2002年には世界でもっとも癒し効果があるロボットとしてギネスブックにも認定されました。

当院では以前にご紹介させて頂きましたドールセラピーを導入していますが、全員の方が好反応を示す訳ではありません。そこで患者さんの好みに多く対応できる様に、あざらしロボット“パロ”の導入をおこないました。

現在認知症治療病棟の1病棟のみではありますが、あざらしロボットを迎え入れ患者さまと共に名前を決め、当院では『コロちゃん』として親しまれています。

以前動物を飼っていた患者さんもおり、人工知能も入っている『コロちゃん』は自分の名前を覚えていて、名前が呼ばれたり、体を撫でられるとかわいい鳴き声を上げるなどします。次号では患者さんの反応をご紹介します。



外来診療担当医表

平成23年10月17日現在

曜 日		月		火		水		木		金		土	
診療科		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内 科	1 診	総合内科 (河島)	神経内科 (予約制) (篠田)	総合内科 (佐伯)	リウマチ 膠原病 (予約制) (永井)	内分泌 (予約制) (堤)	神経内科 (予約制) (澤田 [※])	総合内科 (山本)	—	神経内科 (予約制) (杉野)	消化器 14:00～15:00 (予約制) (中澤)	神経内科 (澤田 [※]) (宇高)	もの忘れ 外来 第1・3・5 (予約制) (杉野)
	2 診	総合内科 (林)	禁煙外来 (予約制) (金) 13:00～ 15:00	総合内科 (尾崎)	内分泌 (予約制) (山本)	総合内科 (金)	肝臓病 (予約制) (河島)	総合内科 (斯波)	循環器 (予約制) (金)	循環器 (予約 制) (佐伯)	禁煙外来 (予約制) (前田) 13:00～ 15:00	総合内科 (磯田)	肝臓病 (予約制) 14:00～ 16:00 第1・3・5 (堀井)
	3 診	糖尿病 (予約制) (吉田)	—	糖尿病 (予約制) (吉田)	糖尿病 (予約制) (吉田)	神経内科 (予約制) (木村)	(予約制) (大澤)	糖尿病 (予約制) (吉田)	糖尿病 (予約制) (吉田)	総合内科 (前田)	呼吸器 (予約制) (堀田) 14:00～ 16:00	—	—
外 科		(濱畑)	—	(濱畑)	—	第1・3・5 (竹田) 第2・4 (日外)	—	(瓜生 [※])	—	(濱畑)	—	—	—
皮 膚 科		—	—	(窪田)	—	(清金)	—	(窪田)	—	(窪田)	—	第1・3・5(清 水) 第2・4 (杉本)	—
整 形 外 科	1 診	(横田)	—	(本田)	—	(伊村)	—	(横田)	—	(金子) 9:30～	(富)	(楊)	—
	2 診	(王谷)	—	—	—	—	—	(小瀬)	—	—	—	(下村)	—
形 成 外 科		(武田)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
脳 外 科		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
泌 尿 器 科		(増田)	—	(増田)	—	(増田)	—	(増田)	—	(増田)	—	—	—
眼 科		(若林)	—	(石崎)	—	(若林)	—	(小山)	—	—	—	(小山)	—
耳 鼻 咽 喉 科		(合田)	—	(野村)	—	(野村)	(奥) 13:00～16:00	(野村)	—	(合田)	(横原) 13:00～16:00	—	—
婦 人 科		—	—	—	—	—	(西山) 13:30～15:00	—	—	—	—	—	—
		—	(西山) 13:30～ 15:00	—	—	—	(予約制) (後山) 第4水曜日 のみ 13:30～ 15:00	—	—	—	(西山) 13:30～15:00	—	—
精 神 ・ 神 経 科 (リ エ ゾ ン)		—	—	(予約制) (石井)	—	—	—	(予約制) (宇田) 9:00 ～10:00	—	(予約 制) (茶谷)	—	—	—
もの 忘れ 外来	1 診	(予約制) (澤田)	(予約制) (宇田)	—	(予約 制) (園田)	(予約制) (木村 第1・2・4・5) (岸川 第3)	(予約制) (篠田)	(予約制) (山 下 第1・2・4・5) (岸川 第3)	(予約制) (岸川) 第3	(予約 制) (園田)	(予約制) (篠田)	—	—
	2 診	—	—	(予約制) (杉野)	—	(予約制) (園田)	—	(予約制) (安藤) 10:00～	(予約制) (安藤) 13:00～15:00	—	—	—	—
小 児 発 達 外 来		—	(予約制) (若宮)	—	—	—	—	—	(予約制) (若宮)	—	—	—	—
歯 科		(藤田)	(瓜生 [※])	(島原 [※]) (瓜生 [※])	(瓜生 [※])	(伊藤)	(瓜生 [※])	(伊藤) (瓜生 [※])	(瓜生 [※])	(有吉) (瓜生 [※])	(瓜生 [※])	(島原 [※])	—
免 疫		—	—	—	—	—	(予約制) (坂井) 13:30～15:30	—	—	—	(予約制) (坂井) 13:30～15:30	—	—

※上記時間をご確認の上お越しください。

受付時間 午前 7:30~11:00
午後 1:00~

診療時間

午前 9:00~
午後 1:00~

リハビリテーション科 だより

～当院のリハビリテーション～



藍野病院のリハビリテーション科では、脳血管疾患やパーキンソン病などの神経難病、腱板損傷などの肩関節疾患や肩・膝関節の人工関節の患者さんが多くおられます。

特に他院で受け入れ困難な精神疾患や認知症を合併されている患者さんも積極的に受け入れています。

病気やケガによって身体的な障害を持っておられる方や日常生活に身体的な不自由を感じておられる方々など、対象者一人一人の症状や生活環境などを伺いながら急性期から維持期まで総合的なリハビリテーションを提供するよう努めています。

リハビリテーション専門医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等のリハビリスタッフが医師、看護師、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士などのスタッフと連携を図りながら、障害の回復のみならず、その人らしい生活を取り戻すこともリハビリテーションの目標として家庭復帰や社会復帰に向けて取り組んでいます。藍野病院のリハビリテーション科は、理学療法、作業療法、言語聴覚療法に分かれています。その内容については今後それぞれで紹介させていただく予定です。



お問い合わせ

総合受付

TEL:072-627-7611 (代)

FAX:072-627-3627

入院のご相談は
「地域医療連携室」まで

編集委員一同

季刊誌「あいの」を最後までご覧いただき、ありがとうございます。今回は新院長就任の挨拶、臨床心理士が取り組んでいることを中心に記載いたしました。その他にリハビリテーション科だよりとしてリハビリテーションの仕事の一部を紹介いたしました。今後も、皆さまに役立つ情報をお伝えできるよう、ご意見を今後の特集に生かしていきたいと考えておりますので、ご感想・ご意見・ご要望などありましたら、お気軽にお問い合わせください。お待ちしております。

編集後記